



パフテスト心身障害児(者)を守る会  
**愛の手を**

第210号

発行責任者  
 社会福祉法人 パフテスト心身障害児(者)を守る会  
 重症心身障害施設 久山療育園  
 重症児者医療療育センター  
 理事長 宮崎信義  
 編集責任者 鍋山泰三  
 福岡県糟屋郡久山町大字久原 1869  
 ☎(092)976-2281  
 FAX (092)976-2172

「新年を希望の内に迎えましょう」

理事長 宮崎信義

2023年という新しい年が与えられました。この3年間の新型コロナウイルス感染症や昨年2月24日のロシアのウクライナ侵略など苦難が多い年でした。しかし、新しい年が「与えられ」たのです。

その意味は人間の知恵や力によってではなく、正に久山療育園を創立に導いた御方によって与えられたと信じます。ですから、例え今がどのような状況にあっても、希望と光は射し込んでいると思うのです。年頭にあたり、「愛の手を」1月号の巻頭言では、久山療育園を建て上げ導かれた理念である聖書から聴いて参ります。

かつて「キリストの福音を土台に」という創立の理念に従って守られている火曜集会で、「新しい命を生きる」と題してお勧めをしたことがあります。ペテロの第一の手紙1章23〜25節から、「あなたがたは、朽ちる種からではなく、朽ちない種から、すなわち、神の変わることに生きた言葉によって新たに生まれたのです。」こう言われているからです。「人は皆、草のようで、その華やかさはすべて、草の花のようだ。草は枯れ、花は散る。しかし、主の言葉は永遠に変わることはない」これこそ、あなたがたに福音として告げ知ら

された言葉なのです。」という聖書の言葉から学びました。このような機会には、神から与えられた掛け替えのない時です。この聖句は旧約聖書イザヤ書40章7〜8節の「草は枯れ、花はしぼむ。主の風が吹きつけたのだ。この民は草に等しい。草は枯れ、花はしぼむがわたしたちの神の言葉はとこしえに立つ」から引用された言葉です。

またローマの信徒への手紙では、「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということ。希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちと与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです(5章3〜5節)」という御言葉が充てられています。この言葉は強い印象を私たちに与えます。人間の力では到底あり得ないことですが、ただキリストの和解の力によって、患難をも希望に変えられると信じて参ります。

忍耐が、待ち望むことの母であるとするば、待ち望むことそのものが、生きることに新しい喜びをもたらします。イエス様は私たちが、自分の痛みや苦しみに向き合わせるだけでなく、それらを越えた所を見るようにさせました。「このように、あなたがたにも今は不安がある。しかし、わたしは再びあなたがたと会うであろう。そして、あなたがたの心は喜びに満たされるであろう。その喜びをあなたがたから取り去る者はいない」(ヨハネによる福音書16章22節)と語られています。神様は私たちが共におられるのでしょうか、それとも、おられないのでしょうか。私たちが今言えることは、神の不在を悲しむその悲しみの真ん中にこ

そ、神の臨在の最初のしるしを見つけてくること出来るということです。主なる神様は、人間が知り得ない行く末についてお示しになりました。しかし、「肉」のままである私たちは、「自分が何者であり、何処から来て、何処に向かうのか」を問いつける存在です。また時として、苦難の中にある時の叫びでもあります。

新型コロナウイルス感染症も森林伐採や乱開発の影響が指摘されていますし、ウクライナ戦争は正に人間のなせる業です。私たちは人生の中で、逃げ出したいくらい叫びたくなくなるような苦難や試練に出遭います。しかし、苦難そのものが私たちにいつて本当の脅威なのではなく、時に危機はチャンスでさえあります。その苦難や試練によって、真理や真実により近づくことさえあるのです。主に信頼し、もう一度御言葉に聞きたいと思えます。コリントの信徒への手紙10章9〜13節で使徒パウロは、「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかつたはず。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます」と述べています。今年こそ、人間とは何者か、何をなすべきか、を問ひ、吟味しつつ、闇の中に光を、困難の中に光を見出したいと願っています。重症心身障害児(者)を始め、支える職員やボランティア、地域の方々の幸いを祈ります。

そ、神の臨在の最初のしるしを見つけてくること出来るということです。主なる神様は、人間が知り得ない行く末についてお示しになりました。しかし、「肉」のままである私たちは、「自分が何者であり、何処から来て、何処に向かうのか」を問いつける存在です。また時として、苦難の中にある時の叫びでもあります。

## 理念と展望

## 「危機の時にも希望は備えられている」

理事長 宮崎 信義

2019年11月に中国の武漢市から発生した新型コロナウイルスは、3月12日にWHOによる「パンデミック宣言」以来、猛威を振るっています。そして2023年1月の今は、新型コロナウイルス感染症の蔓延から4年目に入ろうとしています。

私たちは、この危機の時代にあっても11月27日から12月24日の待降節（アドヴェント）で御子を遣わされた神の愛と救いに感謝し、12月25日にクリスマススの光を受けました。

この危機的状况にあっても、久山療育園を創立に導かれ支えておられる神様の慰めと救いそして希望があることを聖書は次のように示しています。キリストと教会の迫害者であったパウロに、キリストが出会って下さり、180度の回心に至りキリストの伝道者として生涯を捧げた主な手紙の一つがコリントの信徒への手紙でした。キリストの福音（喜ばしい訪れ）がキリストの使

徒となったパウロによって世界に伝えられ、二千年以上経った現在も生きた言葉として私たちに希望を伝えていきます。創立理念と展望の原点である聖書に聴いて参りましょう。

聖書（新共同訳）コリントの信徒への手紙Ⅱ 1章4〜7節

「神は、あらゆる苦難に際してわたしたちを慰めてくださるので、わたしたちも神からいただくこの慰めによって、あらゆる苦難の中にある人々を慰めることができます。キリストの苦しみが満ちあふれてわたしたちにも及んでいるのと同じように、わたしたちの受ける慰めもキリストによつて満ちあふれているからです。わたしたちが悩み苦しむとき、それはあなたがたの慰めと救いになります。また、わたしたちが慰められるとき、それはあなたがたの慰めになり、あなたがたがわたしたちの苦しみに同じ苦しみに耐えることができるのです。あな

たがたについてわたしたちが抱いている希望は揺るぎませぬ。なぜなら、あなたがたが苦しみを共にしてくれているように、慰めをも共にしていると、わたしたちは知っているからです。」

聖書には、ヨブを始めとして、そのような人が大勢出てきます。そして、その人々を襲うものは、苦難と共に孤独や無意味さです。しかし聖書は、苦難に対峙するものとして孤独やあきらめではなく、慰めと救いと希望を置き続けます。そして、それは苦難の深遠の中で、苦難を共に負って下さるお方がおられると証ししています。そのお方がおられるがゆえに、苦難の行く先には確かな慰めと救いと希望があると語り続けています。

## 慰めの神への賛美

4節では、「神は、あらゆる苦難に際してわたしたちを慰めてくださるので、わたしたちも神からいただくこの慰めによつて、あらゆる苦難の中にある人々を慰めることができます」と記されています。苦難の時の神の慰めの意義を

語り、慰めを経験した者こそが苦難の中にある人を慰めることが出来ると述べています。憐れみ深い神によって慰められた者として、言い尽くしがたい逆境にあつても神様の力によつて「あらゆる苦難の中にある人々を慰めること」をさせて頂けるのです。

パウロが書き送ったコリントの信徒たちには、迫害を始めとして、病気や貧困、罪への誘惑など数え切れないほどの苦難があつたと思われまふ。では現代はどうなのでしょう。豊かになり、医学も発達し、平和も続いているから苦難とは無縁になったのか。いいえ、決してそうではないと思えます。豊かさを求めることが悪なのではなく、隣人を忘れ、創造主の恵みを忘れていくところに罪があります。環境破壊や温暖化も人の驕りとは無縁ではないと思えます。パウロは更に、5節で「キリストの苦しみが満ちあふれてわたしたちにも及んでいるのと同じように、わたしたちの受ける慰めもキリストによつて満ちあふれているからです」と慰めから希望に至る道を記しています。

パウロは10節でも、「神は、これほど大きな死の危険からわたしたちを救ってくださったし、また救ってくださることでしよう。これからも救ってくださるにちがいないと、わたしたちは神に希望をかけています。」と救いの御業の確かさを信じています。また、今日の聖句の中で、神によつて慰められることにより他の人々を慰めることが可能であることを強調しましたが、苦難と共にこの私が神の慰めを受けることによつて慰めをも共にするということではないでしょうか。

苦難が苦難で終ることはない、それがキリストの十字架のメッセージです。私たちも苦難の深遠に立たされるとき、言い知れぬ孤独に襲われるとき、十字架を見上げ、その先にある慰めと救いに与かり、希望に変えられたいと思えます。創られ導かれて47年、私たちはこのような危機的状况にあつても、示されたなすべき業を行い、救いの希望を抱いて参りたいと思えます。

病氣からだのから人  
第14回

## 「留学小噺」

センター長／理事 岩 永 知 秋

久山療育園に赴任して間もなく、医学原稿を書くように宮崎理事長から請われて「愛の手を」に投稿してきました。今回は、私自身の執筆の息抜きとして、自身の留学の話題を提供することをお許しください。

私は1985年6月から1987年9月までの2年余り、米国留学の機会に恵まれました。といつてもまだ大学を卒業して5年であり、十分な研究実績もないまま、とにかく外国留学してみたい一心でした。研究室のボスのついででようやく探してもらったのは、米国ではど田舎とされるケンタッキー大学の基礎研究室、薄給のポジションでした。留学の2年前に結婚した家内を連れての珍道中というわけです。今ならケンタッキーと入力すれば、インターネットでいろいろ詳しい情報がすぐ手に入りますが、その当時はネット環境もなく、ケン

タッキーフライドチキン発祥の地で競争馬の産地、くらいの情報しかありません。本屋さんと調べても、それ以上の情報は見つかりませんでした。が、それでも行くのか、と言われそうですね。まあ、誰でも若い時の冒険心は半端ないものがあります。今から考えると身震いします。

### ■ことば

外国ではまず言葉ができません、と思ひ、留学前の準備として、日本にきている米国人に週1回の家庭教師をお願いしました。カリフォルニア出身のヨットマンで、世界中をヨットで旅行している、マイケルという名の男性です。経歴を聞くと風来坊のようですが、年はその頃の私より少し上くらいで、とても知的で親切な紳士でした。きれいなわかりやすい英語を話すので、これなら何とかなるかも、と思ひ留学に旅立ちました。最初

初づきまはすぐにやってきました。日本からケンタッキーへの直行便はなく、サンフランシスコで一泊の乗り継ぎでした。予約したホテルに迎えの車を電話で頼もうとしたのですが、電話に出たのはヒスパニック（今ではラティーンと呼ばれます）系の人で強いなまりがあります。わずかに聞こえるいくつかの単語をつなぎ合わせ、指定された（と思われる）場所待つ不安は前途多難を感じさせるものでした。それから半年後に冬休みで東海岸からフロリダに旅行しましたが、ここでも失敗です。ワシントンで観光バスからいったん見学のため私たち乗客が下車した際、ドライバーが集合場所をアナウンスしたのですが、聞き間違えて集合時間に間に合わず、タクシードライバーに追いつけず、タクシーに乗車賃をぼられるというおまけまでつきました。そもそも私は相手が何を言うのかを理解しつつ、こちらが次に話す英語を頭の中で作文しているのですから、注意散漫の極みです。家内は私よりはるかに英語はできないのですが、

シチュエーションを把握する動物的感覚は鋭く（女性ならではと言ったら怒られますが）、相手がどのような言葉を言いか予想しながら聞き取るので、一部の理解できる言葉から全体像をつかむのです。私の研究室のボスも昔こう言って嘆いていました。「僕は彼らの言っていることの7／8割わからないけど、『わかった』と言わないけど、うちの母ちゃんには1割わかると『わかった』とのたまうんだよね。」

最近の話題になっているそうです。

■車  
車はアメリカ生活でも最も大切なものの一つです。これなしでは買い物もできず、アパートも勤務先の近くに住まざるを得ないこととなります。日本を出る際に普通免許を国際免許に切り替え、留学先で国際免許から米国の免許を取得します。米国では州によって取得の仕方が異なり、その頃はペーパーテストだけでなく実技試験も要求される州がありました。ケンタッキー州は幸いペーパーテストだけで、国際免許から切り替えることができましたが、1年後に移ったオクラホマ州では実技試験も必要とのことでした。日本から直接オクラホマに来た同僚の中には、渡米したすぐで助手席の試験官の南部なまりの英語が聞き取れず、うまくいかなかった人もいました。どんな車に乗るか・・・お金に余裕がある人は好きなアメ車や、故障の少ない日本車を選びます。しかし、私のような貧乏留学者は、車にお金をかけることができませ

ん。最初の留学先ケンタッキ一州レキシントンでは、私の前に留学していた日本人からオンボロ車を1000ドルで購入しました。私が渡米する前に帰国していたので、書類上その売買を証明する公証人(Notary Public)が必要だ、などと言われ、最初から悪戦苦闘したものです。さてこのオンボロ車はフォード社フェアマウントという青いバンで、なぜ1000ドルで買ったかという、すでに10万マイル(16万キロメートル)以上走っていたからです。「刑事コロンボ」のオンボロ車を想像してください。高速道路は比較的快適に走るのですが、一般道を低速で走ると途端にガタガタと車体が震えだし、アクセルを少し吹かさないとすぐにエンストします。エンジンオイルは1か月に1回は取り替えないと、焼け焦げてしまいます。「ガレージ」と呼ばれる修理工場に何回も足を運んだものです。

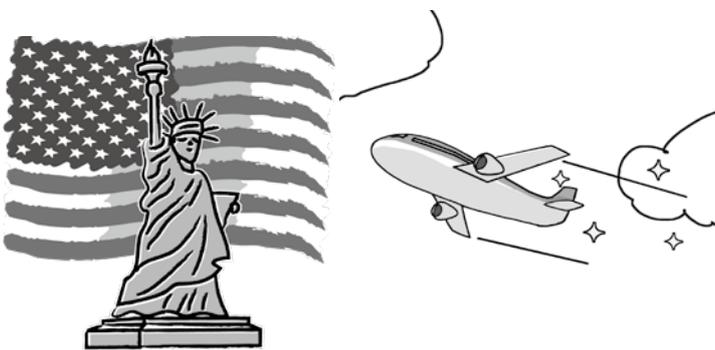
ので早めに帰路についたので、高速道路運転中にボンネットから白い煙が出始めました。まさか、と思い、初めは見えて見ぬふりをしていたのですが、だんだん煙はひどくなってきました。ついに高速道路の路側帯に車を止めることになりました。紙に「Baby in car!」と大書して振り回していると、程なく一台の車が止まってくれ、車の修理工場に電話してくれました。すぐに近所の修理工場から人がレッカー車で来てくれたのですが、「そのままお前たちは車に乗っている」というのです。どうするのか見ていると、わが車の前方をレッカーでつり上げ、後輪だけが接地した状態で、レッカー車は私たちが乗ったままの車を高速道路で牽引していきます。私たちは赤ん坊を抱えたまま、半分宙ぶり、斜め45度上方を見あげながら運ばれていきました。修理工はオンボロ車にあきれながらも、応急修理はしてくれました。

1年後、研究の関係でケンタッキー大学からオクラホマ大学に移籍することになりましたが、この際はこのオンボロ車にUーホールという小さな貨車を連結して移動しました。西部劇のほろ馬車のようなものを車のうしろに連結した形です。これも引越しの経験した日本の研究室のボスが、ご自分の経験から「前に、前に、進むようにするんだ」と留学前に言っていました。自分が経験してよくわかりました。あらかじめケンタッキーを旅立つときに駐車場の練習をしたのですが、バックで車庫入れをしようとすると、車とUーホールとが「く」の字に折れ曲がり、力が伝わらなくなつて、にっちもさつちも動けなくなるのです。ケンタッキーとオクラホマとはかなりの距離があり、途中で1泊しなければなりません。したがって、途中の安ホテルの駐車場では横付けに駐車させてもらいましたが、米国の駐車場が広いので助かりました。先に述べた理由で、できるだけ低速走行を避けながら、何とかオクラホマシティに着きました。オクラホマではもう一台、トヨタカロラの中古車を家内用に購入(さすが日本車!運転は安心でした)しました。フォードのオンボ

ロ車も日本に帰国する際は、研究室の助手が引き取ってくれたのは幸いでした。もちろん、書類手続きに必要な若干のお金を除いて、タダで提供しました。

■おわりに  
ケンタッキー、オクラホマに各1年、最後にシカゴに3か月(オクラホマのボスが異動のため手伝いに)の留学生活でしたが、いずれもアメリカ大陸の内陸部です。ご想像の通り、食生活は魚・日本食の欠乏症に悩み、また若い頃の貧乏生活のため、それこそケンタッキーなどのファストフード店にすらめつたに行けませんでした。ちなみに渡米時の円ドル為替は1ドル250円前後でしたが、2年後帰国時には1ドル125円まで円高になっていました(現在は1ドル150円に迫る円安! になっていきますが)ので、今から考えると留学生活が窮乏から考えると留学生活が窮乏から考えたのも頷けます。私たちの一人娘はケンタッキーで生まれ、そのまま1年半余り米国で育てました。この妊娠・出産・育児についてもいろいろありましたが、また

機会があればお話ししたいと思えます。米国で生まれた一人娘が、東京の海外援助財団から派遣され、中央アジアでしばらく働いたのち、福岡に戻って高校の英語教師となるとは思いますが、父親の無鉄砲なところが似たのかもしれませんが。



## 第53回公開講座について

研修研究委員長／看護部教育担当主任 笹倉 典子

2022年11月21日(月)  
第53回公開講座が開催されました。

今年度のテーマは「重症心身障がい児者の人権について」虐待、拘束をいかに防ぐか」とし、講師に福岡市立心身障がい福祉センター・障がい者基幹相談支援課課長・松野浩二先生に御講演いただきました。



松野先生の御講演の前に、島津療育課長より「当センターの虐待防止の取り組みについて」と題して話題提供がありました。

島津課長は2019年から当センターの虐待防止・人権研修の中心的役割を担っておられます。内容はここ数年間の取り組みの結果と、現在の課題についてでした。



「虐待(Ⅱ)特に言葉による不適切な支援は、無意識の中で行われていることが多いが、それを改善するためにはどうすれば良いのか?」「不適切な場面に遭遇した時に誤解なく注意がし合えるようになるための研修とは?」「『安全』と

『権利擁護』を両立させるにはどのようなにその事柄を捉えるか?と良いのか?といった問題点をわかりやすくお話し頂きました。

続いて、松野先生からはまず、虐待防止法が平成23年に成立し翌年公布された背景や、過去4年連続増加し続けている障害福祉施設従事者による障がい者虐待の状況についての説明がありました。



虐待の発生要因としては①職員が多忙さ・回復しない疲労やモチベーションの低下など、ストレスの蓄積②利用者の特性についての教育・理解・技術の不十分さ③職員同士が話し合える雰囲気のないことなどがあげられるとのことでした。

また、「身体拘束は切迫性・非代替性・一時性の三要件をすべて満たし、かつ慎重な対応が必要」となっています。例えば、私たちは日常の中で、ベルトなどで身体を固定する場面を多く目にします。理由としては、施設側の立場からは事故防止(安全を守る)目的で行っているわけです。しかし拘束を受けている対象者の理解がなければ、「虐待」として認識され、「身体拘束」は、人権侵害であるとのことでした。

質疑応答の時間に、当センターでも座位保持装置でベルトを使用しているが、それも拘束になるのかという質問が出ていました。その事について、経過を長期間見ていく中で状況変化はないか、改善策はないだろうかかと考え続けることが大事だ

と松野先生は答えておられました。

重症心身障害児者の場合、ご本人が自己決定することはほぼ困難な状況にあります。私たちスタッフは「いつものこと」と見過ごしてしまうのではなく、問題意識を高く持つながら、日頃の取り組みについて説明できることの必要性と、記録に残し見直していく大切さを学ぶことができました。

また、いろいろなことがすぐに話し合える「風通しの良い」職場環境を整えていくことも、重症児者の人権を守る大切な要因であることを再認識しました。

他施設からの参加者41名の中には他県からの参加もあり、また、施設・病院以外にも特別支援学校や放課後デイサービスの職員も居られました。当センターのスタッフも人数制限をしながら積極的に参加しました。

「重症児者の人権について」という普遍的かつ複雑なテーマでしたが、みなさん興味深く、熱心に取り組むことのできた公開講座でした。



# 2022年久山療育園クリスマス



2022年のクリスマス、皆さまはいかがお過ごしにいられたでしょうか。

久山療育園では、12月14日(水)に入所クリスマス、15日(木)にクリスマス礼拝、16日(金)〜22日(木)は通所クリスマスと、昨年無事にクリスマスを迎えることができました。

2019年までのクリスマス礼拝には、多くの教会員やボランティアの方々をお招きし、有志職員で結成した聖歌隊にキャンドルサービス、そして茶話会など、厳かかつ大人数で賑やかにお祝いしていましたが、今回もコロナ禍で感染防止対策を最優先する観点から、人数・行動制限を受けたクリスマスとなりました。

12月15日(木)クリスマス礼拝当日は、聖書朗読を横溝正生職員・濱田彩子職員が、奏楽を山田いずみ療育指導室長が担当し、宮崎理事長よりクリスマスメッセージが伝えられ、皆で讃美歌を歌ってイエス様のご降誕を祝い、岩永センター長の挨拶で閉会となりました。限られた人数ではありましたが、保護者会役員、理事・監事、ミットレーベン・ネットワーク会長、そして、新入職員と共にクリスマスのお祝いをすることができました。

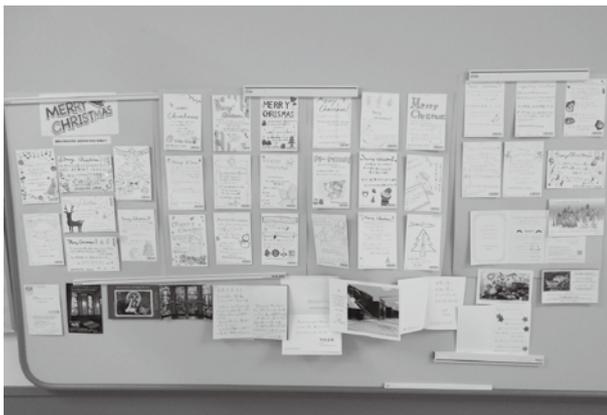
新入職員の中には、礼拝自体が初めての経験であるという職員や、キリスト教系の学校以来の礼拝だったので懐かしかったという感想を持つ職員もいました。

最近では、ZOOM会議や教会礼拝もYouTubeでライブ配信される便利な時代になり、もしかすると久山療育園のクリスマス礼拝も動画で視聴できる日が来るかもしれません、やはり皆で集まって礼拝をまもるという場は大切にしていきたいと思いました。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネによる福音書3章16節)

イエス様のご降誕という大きな恵みが与えられたこと、そして、2022年も久山療育園でクリスマス礼拝を開催できたことに心から感謝し、また多くの皆さまと共にお祝いできる日が来ることをお祈りしています。

(事務部 安部節子)



毎年たくさんのメッセージをありがとうございます！



# 病棟イベント

## 「絵本まみれの秋祭り！」

昨年は「いきものキングダム」という生き物に囲まれた秋祭りでしたが、今年の秋祭りは「絵本ミュージアム」！絵本の中に入りこんだ感覚になれるように様々な絵本の様々なシーンを再現しました。ホールには「おとぎのへや」「うみのへや」「おかしなへや」という3つのおへやがあります。おとぎのへやではみんなで大きな蕪を抜いたり、ブレーメンの音楽隊に入団したり、7匹の子ヤギを探し回ったりしておとぎ話の世界を体験。1人では抜けない蕪もみんなで力を合わせてうんとこしょどっこいしょ！無事抜くことができました！



うみのへやではトンネルに入るとそこはまるで竜宮城。きれいな青い空間にひらひらと魚が泳ぎます。スイミーにも会うことができました。

おかしなへやには入るとあま〜いメイプルの香りが。みんなでしろくまちゃんの手ツトケーキやぐりとぐらのカステラを焼いたり、パンどろぼうと記念撮影をしたり…。

非日常的な絵本の世界で、利用者の皆さん・スタッフの皆さんとっても楽しそうに過ごされていました。来年の秋祭りもお楽しみに！

(めぐみ棟 保育士 柳有似子)

## 「入所者クリスマス」

12月14日(水)はみんなが待ちにまつたクリスマス。12月に入るとこの日を楽しみにソワソワしながらお話をしてくれる利用者さんもあります。

始めはクリスマスの礼拝です。皆さんはライトの光を見つめながら聖書を聞き・お話を真剣に聞いていました。讃美歌は大きな声で歌ったり、スタッフの歌声を聞いたり、体を揺らしたり、それぞれの表現で賛美していました。



礼拝が終わると、祝会です。昼食はとても美味しそうできれいに盛り付けられたごちそうです。ケーキバイキングもありました。皆さんとても嬉しそうに目をキラキラさせてケーキを選んだり、おいしそうにハンバーグを食べていました。

## 「クリスマスケーキ」



食事が終わるとその後は、サンタさんから届いた動画のプレゼントをみんなで楽しみました。今年の動画は、サンタの国の住民たちがクリスマスソングを演奏しているものでした。サンタさんツリーさんの案内でオタマトーンの歌が始まり、トーンチャイムの演奏、オルガンやウクレレ、鉄琴などのジングルベル、ポップソングメドレーでは色々な楽器を使ってクリスマスソングのメドレーを演奏されていました。最後はあわてんぼうのサンタクロースをみんなも一緒に歌いました。いつもはあまり聞けないオーボエやサクソフなどの演奏も聞くことができました。みんなは耳を傾け静かに聴いたり、一緒に楽器を鳴らしたり、大きな声で歌を歌ったり楽しい時間を過ごしました。ひかり棟ではおまけの「あるある探検隊」も登場し皆さんの笑いを誘っていました。

「ありがとうございます、来年もきてね〜」と大きな声と笑顔でサンタさんを見送りました。今年も皆さんの笑顔でキラキラした楽しいクリスマスになりました。来年も期待してますねサンタさん♪

(ひかり棟 保育士 島津静香)

最後はサンタさんの登場です。今年もたくさんプレゼントを持ってきてくれました。皆さんはプレゼントをもらってニッコリ笑顔でとてもうれしそうでしたよ。



# 「2022年の振り返りと新年の抱負」

## めぐみ棟より

今年度の4月は自分にとって新たな年となりました。7年ぶりの異動となり、重症者ホームひさやまから久山療育園の病棟勤務へと戻って働くことになったからです。施設の提供するサービスが違い、さらに7年のブランクもあり戸惑うことが多くあるだろうなと思いつながら働き始めたことを覚えていきます。

しかし、その考えは杞憂に終わりました。一緒に働く職員の方々からたくさん手を差し伸べて頂き、アドバイスをもらい、徐々にではありますが確実に馴染んでいくことができました。この1年は助け合うことの大切さを再確認することができた1年でした。みんなで共に働いているんだと実感する日々でした。

ただ、自分のことではいつばいでもできない1年でもありました。そんな1年も早くも過ぎてしまいました。新年を迎えています。あわただしく1年が過ぎてしまいました。この新しい1年は自分の経験を還元する1年に出来ればと考えています。

今までに培ってきたことを、入所している利用者の皆様の

生活を豊かにするために力を注いでいきたいと思っています。2023年もよろしくお願ひします。

(めぐみ棟 サービス管理責任者

山口真一)



## ひかり棟より

昨年は、2つの目標を上げて、勤務に励みました。まず1つ目に、コロナ禍でも、利用者の方々が、楽しく・快適に過ごせるよう努めることです。コロナの感染対策を行いながらの活動になり今まで通りの活動や行事を行うことは難しい状況ではありましたが、一昨年の経験などを活かして、ユニットスタッフと声を掛け合い、製作や体を使う活動・リラククスできる活動・散歩や外気浴・本読みなど、その日の業務の中で、少しでも療育活動ができる時間を見つけて余暇活動を行うことができたのではないかと思います。誕生会や夏まつり・秋まつり・クリスマス会など月の行事も中止になることなく実施することができ、利用者の楽しそうな姿を見て、自分もうれしい気持ちになりました。

次に2つ目は、後輩のフォローを心掛けることも目標にあげていました。そこで、自分が1〜2年目の時に先輩方から気に掛けてもらっていたことやご指導いただいたことで、支えられながら働いていたことがあったので先輩方のように私も後輩が悩んでいる

様子や困っていたら自分から声を掛けるようにしました。ですが、先輩に伝えないといけない場面では、自分に自信や余裕がなく、その場ですぐに伝えることができず、今年度は、自分の行っていることに自信を持ち、学んだことを先輩に伝えていきたいです。また、今年度は5年目としての自覚を持ち、これからは学ぶ姿勢を忘れずに仕事に励みたいと思います。

(ひかり棟 介護福祉士

大塚菜奈)



# 重症者ホームひさやまより

## 「ハロウィンパーティー」

10月29日に重症者ホームの皆さんでハロウィンパーティーを行いました。



食事の準備段階からいい匂いにつられてリビングに集まってくる入居者さん。

メニュー発表の前に、一人一回ルーレットを回しドリンクを決めました。マンゴーやミックスジュース、ソルティレモン等、全9種類のうち何が当たるのかはお楽しみ。

そして、待ちに待ったメニュー発表。ハロウィンの特別メニューは、チーズピラフにパンプキンシチュー・コールスローサラダ。みんな、おいしそうに全量ぺろりと完食しました。



デザートにはコストコで購入したおっきいティラミスをおみやげで分けてこれも完食。



短い時間だったけど、みんな楽しい時間を過ごせました。

(重症者ホーム 介護福祉士 前田香織)

## ミットレーベン・ネットワークからのお知らせ

### 2022年 年末街頭募金報告

今年も年末の街頭募金が行われました。以前は正月も行ったこともあり、年末も7日間行っていましたが、昨年からは4日間で行っています。参加してくださった方は、「クリスマス寒波」の到来で、雨や雪の中で、凍えながらで本当に有難うございました。

皆さんは、この久山療育園が街頭募金によって作られたことをご存知でしょうか。半世紀以上前のことですが、天神の街角に立って市民に募金を呼びかけて、それが設立資金の一部となったのです。そして、それが現在も続いています。天神の街の姿は時代とともに変わりましたが、私たちのスタイルは同じです。普段は毎月第4土曜日 13時から、場所は西日本新聞社(博多大丸)前です。天神に出ることがあったら、少しの時間でも参加して下さると嬉しいです。

特に、教会関係の方々にはクリスマスで多忙な折、また、例年にない寒さの中で募金活動にご協力をいただきましたことを感謝いたします。以上、ご報告いたします。

#### 「久山の 募金呼びかけ イブの街」

(重症児者と共に生きる「ミットレーベン・ネットワーク」 会長 伊原幹治)

2022年日時	参加者数	教会・団体	募金額	備考
12/22(木)	19人	9教会	26,456円	降雨で1時間
12/23(金)				雨・雪で中止
12/24(土)	29人	10教会	35,213円	
12/25(日)	10人	4教会、1団体	38,354円	
計	58人	23教会、1団体	100,023円	



# 通所で頑張っています



マジックショーの開演で～す！

## 「マジックショー」

第2療育室の方々が、マジックを披露しにきてくれました！

グループ名はその名も「オリーブの首飾り」。

練習を重ねたマジックの数々に第1療育室から歓声が上がりました。

(通所 介護福祉士 平山咲)



マジックのお手伝い…



1枚入れたスカーフが…



あれ！？何枚も繋がってでてくるよ



箱がくるくる…中はどうなっているのかな



短い筒が…  
どんどん伸びていきます！



盛況のうちに幕を閉じました(^O^)/

## 「クリスマス活動」

今年も通所クリスマスがありました。  
今年はずきさんと一緒に制作したランタンで光の道を…。  
幻想的で温かみのある光が灯りました。

(通所 介護福祉士 平山咲)



タペストリーと一緒に…



バックのタペストリーも手作りです



プレゼント選び



手作りランタンで温かい光を…



大きなペットボトルツリー

## 「利用者さんの笑顔は最高」

先輩ママさんとのご縁があり、久山療育園をご紹介頂き早くも11年が過ぎました。以前から車で前を通るたび、「どんな所なんだろう…」と思っていましたが、まさか自分が職員として勤めさせて頂くとは思っていませんでした。初めて見学に行ったのはちょうど2月の節分活動でみんな楽しそうに鬼に向かって、落花生を投げていました。見学のつもりがその活動に参加させて頂き、楽しく過ごした事は今でも鮮明に覚えています。

私は地域療育部、通所での皆様と毎日、日中活動をさせて頂いております。その中で日々季節に応じてさまざまな活動を計画し、皆様に提供させて頂いております。活動の中で1番に考える事は「どんな風に関わったら、より伝わりやすいだろうか」「目に留まりやすい環境設定をどう準備しようか」「伝わりやすい音楽(曲)は何にしようか」…といつも考えています。私は保育士という立場で活動を提供させて頂いていますが、それに関わるスタッフ全員が一人ひとりに合わせて関わりを持ち、その方に合ったやり方で活動を促してくれるスペシャリスト…。みんなの力が合わされば、本当にすごい力になるんだと、日々感じています。

私が毎日元気に笑っていただけるのも利用者さんの笑顔、スタッフの笑顔がそこにあるからだと感謝しております。これからもみんなと共に笑顔あふれる通所になればいいと願っています。一人ひとりの笑顔を引き出すために、私も明るく前を向いて笑っていきます。

(通所 保育士 汐田美賀)

## 「看護師として二年目を迎えて…」

久山療育園に入職して約2年が経とうとしています。入職したばかりの頃は利用者様の顔と名前を覚える事や疾患の理解や個別性、通所での1日の流れを覚える事で1日があっという間に終わっていました。日々利用者様と関わる中で表情などを通して体調の変化を感じることができるようになりました。

通所では、保育士・介護福祉士の方を中心とした季節行事や療育活動は日々関心するものばかりで利用者様の笑顔がよく見られます。看護師として利用者様の健康管理をしながら療育活動に安全・安楽に参加して頂けるように看護を行っています。

ご家族とお話しする機会も増え、ご家族のお子様に対する愛情の深さを感じる毎日です。

(通所 看護師 吉田藍)



藤田 英彦

2022年は、コロナ禍に続き、世界中を震撼させる事件が起こりました。

一つは、2月末にロシアのウクライナ侵略。もう一つは7月、日本で起きた安倍晋三元総理が参議院選挙応援演説の当初、背後から元海上自衛隊下士官に狙撃された事件です。マスコミは「民主主義の暴力による破壊行為」と非難し、参院選で安倍、麻生派の支持を受け勝ち誇る岸田首相は「国債による防衛費大幅増強予算編成」を豪語します。ところが凶行直後、山上徹也は「母親が『統一教会』の信者となり、約2億円で上の金品を『献金』と称して差し出した為、家庭は崩壊し本当に『統一教会』を恨んで何らかの報復を考えていた。たまたま安倍晋三元総理が奈良に応援に到来、好機と挙に及んだ」。更に母

親の兄（弁護士）が「本人ら兄弟の悲惨さと『統一教会』の誹謗」と供述します。（もし、この発言がなければ、被告は留置場で散々な目にあつたのではないのでしょうか。）

その後一変、マスコミは安倍元総理と自由民主党関係の今まで覆い隠されていた驚くべき実態を次々と暴露します。一例として、この度の参院選の投票で「旧統一教会」から投票支援を受けた自民党議員は約200名と言われています。選挙とは何だろうか？旧統一教会総裁文鮮明夫妻が日本を敵視し、日本女性たちを集団結婚にまで強いて「反共」を語るのは何故か、それに追従して自己利得を求める政治家の真意は何か？次々に疑問が出てきます。

東京・中目黒の恵泉教会牧師をしていた頃「勝部のお爺さん」と呼んでいた教会員のお宅を訪ねた時、彼がしみじみ「戦後の日本を本当に悪くしたのは岸信介ですね。」と言われたことを今も思い出します。彼が戦前、英国大使館一等書記官から中近東の大使とされ、敗戦直後、昭和天皇がマッカーサーを訪問した際「天皇の名代」として直接マッカーサーを訪問。

詳細に打ち合わせをした人でした。彼によると「岸信介元総理は、戦中、東条内閣に在って満州国長官等を務め、A級戦犯として巣鴨に入獄します。朝鮮戦争勃発に伴いマッカーサー恩赦で自由民主党に入党します。石橋湛山は反対に戦中「東洋経済」社に依って「小国主義」を称え、東条内閣に反対しながら、敗戦後、考える処あって自由民主党に入り、総裁選で岸信介を破り、鳩山内閣後、1956年12月に石橋湛山内閣を組織。石橋湛山は「国会運営の正常化」「雇用の拡大」「福祉国家の建設」「世界平和実現」を「内閣方針」に掲げ、特に「向米一辺倒の冷戦路線からの脱却」を謳い期待されますが、極めて残念なことに病に罹り、就任1ヶ月で岸信介に総理代行を委ね、翌年2月17日辞職します。

「国民の祝日」に加えられ、それが「靖国神社国営化法」に繋がるようになりました。

岸信介は総理時代、「新日米安保条約」を強引に強行します。その頃、韓国の新々宗教で「反共」を謳い文句に、色々な悪辣な手段を使い世界的に手を広げ、日本では「統一教会」本部を渋谷区南平台に設置し、文鮮明が死去した後も、「宗教法人世界平和統一家庭連合」を名乗って「法人化」し、その活動を展開してきました。然し「安倍晋三元総理殺害事件」以降暴露された凄まじい「統一教会と自由民主党」の癒着による「悪行」に、流石に文部科学省が反転して、「障害者救済法」を設置、「質問権」を行使し「宗教法人審議会」にかけて解散もあり得る調査があつたようです。

「宗教法案」については1927年、若槻内閣により貴族院に130条をもって提出され「廃案」。日本バプテスト西部組合は「バプテスト主義に反すると否定。」1929年、田中義一内閣時代に、99条で再び提出されますが、バプテスト、特に北九州の牧師会は激しく反発。生温かい応答の日本基督教

連盟に離脱状を突き付けるほどで、「鹿児島教会の菅野牧師は『反対意思』を、当時の参議院議長に架電。翌日に牧師館に憲兵が訪れた。」（『日本バプテスト連盟史』）ほどですが、1941年「宗教団体法」成立。小さい宗教熱心な？教派は宗教法ではなく「治安維持法」によって弾圧されてゆきま

す。私たちは「この国の暴力」を再び認めないと声を大きくして叫ばなければなりません。

一方、政権入手後の岸田首相に驚かされます。先ず、防衛費40億円以上の計画、それに伴うべらぼうな国債発行、もはや自衛隊とは言えない「敵基地（先制、長距離）攻撃」等々。まさに軍事国家です。自衛とは到底言えません。また次に許せないのは、それだけの予算を計画しながら「児童手当」「障害者給付予算の引き延ばしを図る」人間的感覚を持ち合わせない「非人間的」政策です。

# 防災への取り組み

## 「防災に対する意識の向上に向けた取り組み」

久山療育園では、児童福祉法第  
六条に基づき毎月避難訓練を実施  
しています。2021年度より、多  
くの職員が防災訓練に参加し、防  
災に対する意識の向上を目的とし  
て各部署で全体避難訓練・初動訓  
練と分けて訓練を行っています。

全体避難訓練では、火災・水害・  
地震に対する訓練、夜間を想定し  
た訓練を行っています。初動訓練  
では、災害時にどのような初動の  
動きが必要なのかについて各部署  
で考える機会を持ち、意識の向上  
を図るため防災委員会を中心に取  
組んでもらっています。交代勤務  
が多い中での訓練につき、なか  
か全職員の参加は難しい現状です  
が、少しでも工夫して情報共有が  
出来るように意識しています。



また、2024年4月より施設系・  
在宅系を問わず介護事業所では「BC  
P」の策定が義務化されます。「BCP」  
とは厚生労働省では「業務継続計画」と  
翻訳されており、その目的は、大地震  
や水害などの自然災害、感染症の蔓延  
といった不測の事態が発生した場合で  
も、利用者や職員を守り、可能な限り業  
務を継続したり、早期に復旧できるよ  
うに備える事と定義されています。

当センターでも「防災委員会」とは  
別に「BCP策定会議」を定期的に開催  
し、それぞれの責任部署の職員が中心  
となり、策定に向けて取り組んでいま  
す。

当センターでの基本方針(サービ  
スの継続・利用者の安全確保・職員の安  
全確保・地域貢献)に基づき、「正確な  
情報と判断が出来る体制」「事前の対  
策」と「被災時の対策」「業務の優先順位  
の整理」「普段からの周知・研修・訓練」  
と取り組んでいく事は多岐にわたります  
が、少しずつではありますが進んで  
いる状況です。

感染症の対策も並行して、感染対策  
委員会と協力し取り組んでいます。感  
染症が拡大すると、介護サービスの提  
供が停止してしまう可能性があるた  
め、感染防止対策も重要です。感染症は  
ヒトを介して拡大し、職員の感染者が  
増加すると人手不足になり、介護サー  
ビスの提供が困難になります。

防災という枠組みが近年、広く大き

くなってきていますが、広義の防災という  
意味で園全体で取り組んでいます。  
台風や地震、大雨などの自然災害は、電  
気や水道などのライフラインを断絶した  
り、施設の建物を倒壊させたりします。大  
規模自然災害による影響は、介護サービス  
の提供に大きな影響を及ぼします。

また、新型コロナウイルス感染症は、高  
い感染力や障害者・基礎疾患のある方が  
重症化しやすい特性があります。感染が拡  
大し、従来どおりの介護サービスの提供が  
困難になった施設もありました。

介護サービスは、利用者やご家族にとつ  
て生活に欠かせないサービスであるため、  
災害や感染症によってサービスの提供が  
中断されるのは大きな問題です。非常時  
でも介護サービスの提供を継続する。また  
はサービス提供を早期に再開できるように  
「BCPの策定」が義務化される動きに  
つながっています。

防災委員会の目的は「身体・生命の安全  
確保」「物的被害の軽減」とされています。

一方、「BCP」の目的は、「身体・生命の  
安全確保に加え、優先的に継続、復旧すべ  
き重要業務の継続または早期復旧」です。

今後もいつ起こりうるか分からない災  
害に対応していけるよう、防災委員とし  
て日々の訓練に取り組みなながらも、広い視  
野、視点で様々な災害に対応できる体制を  
久山療育園全体で、地域等とも連携しな  
がら、今後も構築していきたいと思いま  
す。

災害が起きてから慌てるのではなく、出  
来る限りの準備をしつかりと図り、入所、在

宅利用者、家族が困ることがないよ  
う、これからも日々の訓練において実  
際の災害を想定しながら取り組んで  
いきたいと思えます。

(防災委員長 島津洋昭)





# 新入職員の皆さん

2022年度はコロナ禍にあっても春以降に新しい仲間4名をお迎えしました。  
感謝とともにご紹介します。



- ①竹山 妙子(調理員/栄養課)
- ②皆様と仲良くなれる様、頑張ります。
- ③長所..真面目と思います。
- 短所..慌て者です。
- ④「共に生きる」を忘れず心掛けます。



- ①大浦 真妃(保育士/ひかり棟)
- ②初めてなのでご迷惑をお掛けするかと思いますが一生懸命頑張ります。
- ③長所..明るく好奇心旺盛なところ。
- 短所..猪突猛進なところ
- ④利用者さんと一緒に明るく、楽しい生活を送れるように、また、ご家族に「ここで良かった。ありがとう」と思われるようにしたいです。

- ①名前・職名・部門配置
- ②久山療育園で働くことについての抱負
- ③長所・短所
- ④利用者の方や家族とどのように関わりたいですか？



- ①徳留 美沙子(事務員/事務部)
- ②利用者様の気持ちに寄り添い、笑顔で頑張ります。
- ③長所..良く笑います
- 短所..緊張します。
- ④いつも笑顔で過ごせるような関わりをしていきたいです。



- ①小泉 健太(看護師/めぐみ棟)
- ②入園されている方が気持ちよく生活できるように努力します。
- ③長所..好奇心が強い。
- 短所..同時に色々出来ない。(単細胞)
- ④安心して生活していただけるように、相手の目線に立ち行動します。



ご協力ありがとうございました

(2022年9月1日～11月30日) 敬称略

【法人】

一般献金

秋永由美、大洲幼稚園、甲斐丈士、鎌倉ツヤ子、加來徳子、志満秀武・てい子、堺太郎、佐藤妙子、下山由美枝、白形和子、西南学院高等学校生徒会、西南学院高等学校母の会、西南学院バプテスト教会姉妹会、第一保険(株)、高島克代、高島さつき、竹市志津、土地家屋調査士法人エビス、日本バプテスト大阪教会、日本福音ルーテル甘木教会付属甘木聖和幼稚園、久山療育園来久の会、久山療育園手作品売上、秀島貴之、平川成、福岡聖書キリスト教会、福田靖、福本順子、藤永嘉孝、豊前キリスト教会、船津丸泰、松岡順之介、松崎美恵子、宮崎信義、村津俊博、銘茶かおり園、柳元京子、山口正夫、(有)まとう電器

【重症者ホーム】

一般献金

自動販売機売上献金、井手加奈子、重症者ホームひさやま家族会、杉並中通教会、久山療育園献金箱、松川可歩、安河内清美、匿名

【施設】

一般献金

大場奈緒子、大原信幸、岡本好枝、金丸尚美、(株)フクエキ、川崎バプテスト教会女性会、川名幸重、木元克治、古賀和男、古賀成、後藤香織、坂口繁和、新藤賢恵・佐知子、田上洋子、立石有梨佳、田中節子・由美、日本キリスト

献品

NPO 法人大隅シオン会(タオル)、猪城古(雑巾)、大井バプテスト教会女性会(タオルエプロン)、荻本光雄(さつまいも)、金沢キリスト教会(タオル)、川崎バプテスト教会女性会(タオルエプロン)、宗廣美代子(米)、昭栄シャローム(バスタオル)、末田初恵(エプロン他)、高倉博子(食食用エプロン)、常盤台バプテスト教会(タオルエプロン)、中村美雪(タオル)、西一枝(タオルエプロン)、二宮章年(首掛け扇風機)、久山町役場(もち米)、平川成(手作品、福岡県理容組合(サロンタオル)、松尾国利(葉書)、百田みゆき(米)、横溝愛子(タオルエプロン)

献金申込先

- 1.《郵送》 社会福祉法人 バプテスト心身障害児(者)を守る会 〒811-2501 福岡県糟屋郡久山町大字久原 1869 久山療育園重症児者医療療育センター内 ☎(092) 976-2281(代)
2.《郵便振込》郵便振替【01720-8-24404】 名義：バプテスト心身障害者を守る会
3.《銀行振込》西日本シティ銀行久山支店 普71888 名義：バプテスト心身障害児(者)を守る会 理事長 宮崎信義
4.《ホームページ》 当センターホームページから、クレジットカードによる寄付が可能となっています。「寄付金のお願い」より開いて下さい。また、郵便局振込用紙もパソコン画面よりダウンロードすることができますのでご利用ください。
個人、会社共に免税の対象になります。
メール：hisayama@hisayama-smid.jp

メモ帳

【10月】

▽4日 福岡特別支援学校訪問教育修学旅行
▽5日 秋季新入職員オリエンテーション

▽7日 誕生会
▽7・8日 認定看護師研修会
▽13日 災害対策訓練全体(停電)
▽27日 全国重症心身障害児者施設職員研修会 看護管理コース

【11月】

▽2・10・11日 令和4年度医療的ケア研修
▽8日 秋季オリエンテーション
▽11日 誕生会

▽21日 公開講座
▽24日 2022年度第3回事業

【12月】

▽2日 誕生会
▽8日 福岡県重症心身障害者施設協議会

▽9日 避難訓練
▽14日 入所クリスマス
▽14日 社会福祉法人等指導監査(医療型障害児入所施設)
▽15日 クリスマス感謝礼拝
▽16～22日 通所クリスマス
▽17日 認定看護師研修運営会議
▽22日 託児所避難・消火訓練

職員の異動

(2022/10/1～12/31)

【採用】

10/1付 林田 剛(看護師)

10/5付 竹山 妙子(調理員)

10/24付 小泉 建太(看護師)

11/24付 徳留 美沙子(事務員)

【退職】

10/7付 寒松 正(事務員)

12/31付 大里 弘美(介護福祉士)

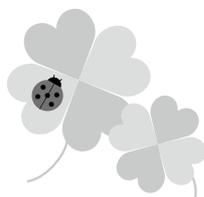
▽多久島 真理子(介護福祉士)

▽永田 馨子(療育員)

▽河本 武美(調理師)

▽林田 剛(看護師)

▽岸本 真由美(看護師)



# ボランティアだより

## 「ボランティア活動の紹介」

今年も昨年に引き続き、このコロナ禍の中で午前中のみの活動がメインになっています。

その中で、ボランティアの皆様には、各病棟・通所・ホームで行われている行事や活動等で使用する材料の作成の依頼も行っていきます。病棟では、七夕まつり・絵本ミュージアム、通所ではハロウィンの飾り・花紙で花を作ってもらい、活動の中で使用させていただきま



少しでも、共有できるようにボランティア室に活動の様子を写真にして、適宜、掲示しています。



本来であれば、一緒に作成したり、活動自体に参加しながら、利用者と共に見て回るといった事が理想ですが、現状では難しい状況です。

少しでもボランティアさんと共有できる時間を増やしていけるように、直接的な関わりだけではなく、出来ることを共に考えていきながら、このコロナ禍が落ち着いたらには、スムーズに再開できるように取り組んでいきたいと思っています。

様々な関わりを通して、ボランティアさんのありがたみを改めて感じることが出来、久山療育園の理念でもある「共に生きる」の精神を忘れずに、現場の職員にも伝えていく事を心がけていきたいと思っています。

(ボランティア委員長 島津洋昭)

## 歩 行 器

12月は恒例のクリスマスを迎えることができました。しかし、新型コロナウイルス蔓延の脅威は3年目を迎えても未だに終息の見通しが立っていません。変異株が次々と現れ、久山療育園でも感染防止に努めておりましたが、残念ながら年末年始にかけてクラスターが発生し、職員及びその家族への影響は少なくありません。こうした緊張が強いられる時代にあつて、縮小版ではありますが、喜びの時としてクリスマス礼拝をいたしましたことに、感謝致します。

クリスマスの前4週間は、アドベント(待降節)週間として、神の御子・救世主の誕生を待ち望む期間があります。1週目から「希望」「平和」「喜び」「愛」へと順次思いを募らせていきます。正にコロナウイルスの脅威からの解放とアドベントが重ね合わされます。特に重症児者への感染を防ぐため、今しばらく耐えていくことが求められています。来年こそは、共に集い共

に食し共に分かち合うことができますよう、今は一人一人の忍耐が希望へと繋がっていくことを祈ります。

先日「なぜ君は笑顔でいられた

の？ 福本俊平 神と人にと愛されたその生涯」という本をご恵贈頂きました。難病と闘いながら、周囲の人々に慰めや希望や喜びを与えてくれた福本さんの生き様に、私も力づけられました。不自由さに不満を募らせ、周囲に悪影響を及ぼしてしまうのが当たり前のような状況であるのに。しかし、これを超えて周囲に希望を与えていく生き方もあるのだと。人の感情・思いを支配しているものは何なのかと、思いを巡らす時を与えてくれました。

本誌「愛の手を」をお読みくださった方々に、障害を負いながらも力いっぱい生きていく方たちの思いが伝われば幸いです。

(T・N)

### 【専用メールアドレス】

ボランティアに関するお問い合わせの方法として、専用メールがございます。

「興味があるけど、どんなことするのか心配…」

「行ってみたいけど、手続きは？」など、いつでもご質問いただけるようになっています。

お気軽にご利用ください。

[bora@hisayama-smid.jp](mailto:bora@hisayama-smid.jp)